

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年5月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200447		
法人名	健美福祉会		
事業所名	はなみずき		
所在地	富山県高岡市中曾根500番地		
自己評価作成日	平成30年4月24日	評価結果市町村受理日	平成30年5月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年5月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の基本理念に置き、家庭で過ごしているような笑い声や笑顔の絶えない毎日が過ごせるように努めている。生活の中で、入居者の個々の能力に応じた生活スタイルの実現や、季節を感じる事の出来るよう外出の機会を設け、自由に外出できるよう家族と協力し希望に沿った生活が送れるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

かかりつけ医との医療連携を確保し、利用者、職員ともに「笑って楽しく生きる」ことができるよう取り組んでいる。身体拘束をしないケアに徹底し、利用者が安心して生活出来るように、管理者、職員ともにサービスのレベル向上に取り組んでいる。近隣を散歩したり、地元の獅子舞を招くなど利用者とともに楽しみ、積極的に地域の人たちとの関わりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

はなみずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を意識し、管理者を筆頭に理念に基づいたサービスが提供出来るよう努めている。	管理者、職員ともに、常に事業所理念を心がけ、笑顔を絶やさず楽しく過ごせるようケアに努めている。利用者の人格を尊重し、利用者本位のサービスが徹底されるよう取り組み、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日に、散歩に出かけたり、地域の公民館にて花見などの行事を行ったりと、地域とのつながりを持つよう努めている。	地元の公民館を使い食事会を行ったり、祭りの時には獅子舞を事業所に招いている。また、夏の納涼祭には、近隣の人たちを招くなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや、避難訓練などの協力などを通して、認知症の方への関わりを持ってもらい、関わりの方を見てもらえるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、推進会議にて状況の報告や、現状の問題などについて話をしている。参加者の意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に開催されており、事業所からはケアの様子や行事予定などの報告がある。委員からはヒヤリハットの取り扱いについて質問が出るなど、活発に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会に参加することで、実情の報告を伝えたり、協力関係を築くよう取り組んでいる。何か、サービス運営について疑問に思った事は、直接確認し解決している。	問題行動を起こされる利用者への対応について、市の担当者に直接相談したり意見を聞くなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会を立ち上げ、月に1度勉強会を行い、カンファレンスにて入居者が安全に生活出来るよう、話し合っている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、職員全員に徹底されているが、更にケアのレベルを高めるべく、身体拘束廃止委員会を立ち上げ、勉強会を開いて、利用者が安心して生活できるようケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日常生活での入居者に対しての接し方や言動について、職員お互いに注意しケアにあたっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、必要な方はいないが日々のサービス事業の変化について勉強会を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、家族の方には書類を通して十分な説明をし、理解を得ている。契約後に、発生した疑問についてもその都度説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の場や家族の訪問時に意見・要望を聞いている。苦情などあった際には、運営推進会議にて伝え、意見をもらっている。</p>	<p>利用者、家族の意見や要望は、面会に訪れた時や運営推進会議の場で聞いている。提言された案件は、「意見シート」に記録されたり、その場で解決できるものもある。</p>	<p>全ての事案が職員の共通認識として活かされるように、「意見シート」の見直しを図り、提言された案件がサービスのレベル向上に資することを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや、業務ミーティングなどで意見や提案を聞く機会をもっている。すぐに、解決出来る事は、その場で解決している。	開設以来の職員も多く、職員間のコミュニケーションは良好に保たれている。職員の意見や要望を聞く機会はしっかりと確保されており、職員から案件があれば忌憚なく話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の勤務状況の把握を行い、職員一人ひとりが働きやすい環境で勤められるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ事業所での研修や、定期的にくる研修案内に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修に参加した職員からの報告を元にミーティングなどを通し質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学などを通し事業所やサービスについての不安などに耳を傾け安心して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を聞き、カンファレンスや、ケアマネジャーに相談しながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が不安に思っている事を、契約時や面談時に話を聞き柔軟なサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で必要な洗濯物たたみ、テーブル拭き、掃除など一緒に行い、個々に役割を持って生活してもらう事で、共に協力し生活しているという意識作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際には、施設での様子を話し、また今までの家での生活などを聞かせてもらい、家族、職員が一体となって支援している事を互いに認識しケアに活かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人なじみの美容院や病院との関係が途切れないように努めている。友達や、家族の面会を大切にしゆっくり会話出来るよう環境作りに努めている。	美容院など家族の協力を得ながら、利用者は自分の馴染みの場所に通っている。友人や知人が訪れたときは話の場を確保するなど、馴染みの関係が途切れないようにサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歩行訓練など、一日に一回は全員で行い共に活動する機会を設けている。ソファーに移動し、一緒にテレビを見てもらったり、入居者同志の関係がうまくいくように、職員も共に会話に入り関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、入居者の状態を気かけ、必要があれば家族、医療機関との連携に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションや、日々の暮らしの中から本人の思いを汲み取るよう努めている。ケースによっては、家族にも協力してもらえよう話し合いの機会を持ち本人の思いを尊重出来るよう努めている。	職員は利用者の自然な笑顔が見られるよう、日ごろからコミュニケーションを図っている。利用者が何を思い何をしたい、何が食べたいかなど表情や言動の理解に努め、思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から知り得た情報を元に、入居者の生活歴を把握し、本人との日常の会話から、本人の気持ちや、希望、家族への思いを把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや気付きを介護日誌に記入し表情や行動を観察することで心身の状況の把握、レクリエーションを通じて、出来る能力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行っている。事前に、各入居者の気づきや、困っている事を個々に書き出し、色々な意見を元に話し合いを行い、介護計画の作成、変更を行っている。	その人らしい生活の送り方を、職員間で話し合い、医療や家族からの意見も反映し、介護計画の作成に取り組んでいる。現状に即して見直しを進め、変更は職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を細かく記録に残し、その時々様子をカンファレンスを通して、職員間で共有し日々のサービスの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院への受診や、家族が行けない買い物などには、職員が付き添い、柔軟にサービスが行えるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の消耗品の買い物などを、一緒に近くのドラッグストアなどに買いに行っている。近くの郵便局まで、家族にあてた手紙を出しに行く事もあり、地域資源を活用するよう努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による、訪問診察を2ヶ月に1回行っている。体調不良の際には、病院と連携を取り合いながら、対応している。今までのかかりつけ医の方には、家族が付き添い入居者の病状把握に努めている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を支援し、家族の協力を得て取り組んでいる。訪問診察を受けている協力医とは、いつでも適切な医療を受けられるよう連携が図られており、安心できる体制が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の情報や日々の変化など細かく記録に残し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを通し、医療機関に情報を提供している。入院中、医療機関に訪問し、看護師さんから、話を聞いたり本人と話をしながら、状況の把握に努め、退院に向け情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しでも状態に変化があった際には、看護師、かかりつけ医に相談し家族の意向を聞くなど、話し合いの場を設けている。	重度化や入院時など、状態変化に応じて、本人、家族の思いを確認している。医療からの意見や、事業所としての出来ることを家族に説明しながら理解を得るように努め、方向性を一緒に考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは、時々状況に応じて変更しており、変更内容を申し送りノートなどを活用し、伝達している。緊急時に、慌てず行動していく事が、課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、いざという時の自分の役割は理解しているが、実践に繋がられるかは分からない。訓練の時の地域の方への協力参加をお願いしている。	消防署立ち合いのもと年2回避難訓練を実施しているが、地域住民へは運営推進会議や納涼祭などを通して訓練への協力をお願いしている。また備蓄品などは、置き場所の確保を進めている。	今後も地域住民への避難訓練の参加を働きかけると共に、備蓄品も事業所内で整備されることが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意し、本人のプライドや羞恥心に配慮しているつもりだが、時々なれすぎた言動がある為、尊敬を込めた対応に心掛けるよう努めている。	馴れ合いの言葉がけに注意し、利用者一人ひとりに尊敬の念をもった対応に努めている。その時々で感情の起伏や自己主張の強い方もいるが、人格を損ねない対応を職員間で進め、タイミングを見て気分転換を図るなど、落ち着く対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望に沿えるよう、表情や話し方で本人の希望を促したり、反応を確かめながら、自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の今までの生活パターンに合わせて、施設の生活スタイルを優先せず、その人らしい暮らしが出来るよう希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、衣類選びや身だしなみに気をつけている。2ヶ月に1度美容師に来てもらい、本人の希望される髪型やカラーをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	花見や納涼祭などの行事の際には、その季節に合った入居者の好きなメニューを提供している。調理時には、皮をむいたりなどの簡単な手伝いをしてもらっている。	利用者一人ひとりの飲み込みや噛む力を考慮して食事を提供し、食材の風味や触感も味わえるようメニューを説明しながら食事を進めている。職員と一緒にテーブルを囲み、楽しい時間となるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副菜の量は本人の食べる量や、水分量は摂取量を確認しながらその都度確認し検討している。本人の好みの飲み物を提供し水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。本人に合わせた歯ブラシや、歯間ブラシなどを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄管理表に記入し、個人の能力に応じて、定期的にトイレの声掛けを行い、トイレでの排泄が継続出来るように努めている。	排泄パターンを参考にトイレでの排泄を進め、声かけが必要な利用者には早めに促すなど、一人ひとりの状態に合わせてプライバシーに配慮しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、食事、おやつ以外にも水分を摂取してもらえるようにしている。便秘傾向の方には、乳製品やオリゴ糖などを摂取してもらい、自然排便に努めている。便秘が続くようなら、一人ひとりに合った下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、職員間で連携を取り、声掛けに工夫したり、気持ちよく入浴できるように、環境を整えたりしている。本人の希望を聞き、個々に合ったタイミングで入浴出来るよう支援している。	利用者の状態に応じて機械浴を使うこともあり、柔軟な対応を行いながらゆったりと入浴できるよう支援している。拒否があればタイミングを見て進めるなど、無理強いしないで行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所の際には、家族に生活習慣等を聞き、生活歴を参考にしている。必要な入居者には、24時間シートを使用し安心して生活出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに薬情をファイルし、全職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時は、2人で二重確認を行っている。内服変更時の症状の変化には、記録に残し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の希望や、能力に合わせた活動を、生活の中で役割として取り入れている。家族の面会など、家族との関わりをもってもらい、安心出来る時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族さんと、自由に外出してもらっている。本人の希望時や天気の良い日は散歩や買い物を計画し、外出する機会を作っている。又、四季を感じてもらう為に花見などの機会を作っている。	近所の公園への散歩や買い物など、お天気や体調に合わせてお連れし、気分転換を図っている。ドライブを兼ねて季節の花見や地元のお祭り見物にも出かけ、楽しい時間を過ごしてもらえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを預かり、外出時や移動パンの販売で希望した物を購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時などは家族に連絡し、伝えて欲しい内容などを伝達している。面会を希望された際には、その旨伝え家族とのつながりが継続出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備で清潔を保ち、居室は本人と担当職員と一緒に片付けを行っている。月ごとに季節に応じた壁飾りを利用者と制作し掲示している。	共有フロアにはテーブルやソファなどがバランスよく配置され、利用者の歩行や車椅子の動線がゆったりと作られている。中庭で作る家庭菜園で職員と一緒に育てる楽しみもあり、リビングに居ながら季節を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	年齢や生活歴を元にテーブルの座席を考えトラブルがあった際にはその都度変更するなどし、気持ちよく生活できる様工夫している。一人で過ごしたい際には、居室にて思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用していたタンスや、毛布などを持って来てもらい環境の変化が少ないよう取り組んでいる。家族の写真や、手紙などを壁に貼ったりと、安心出来る物を見えやすい所に置くようにしている。	掃除やシーツ交換を職員と一緒にを行い、自分の部屋の清潔保持と居心地の良さを作っている。壁に家族写真や塗り絵を飾ったり、好きな本やテレビを見て自室で過ごされる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、トイレ歩行に必要な所には手すりが設置してある。手すりを使用し、見守りや付き添いで行ける所は、行ってもらっている。夜間、足元が暗くなるので、必要な方には足元灯を使用し、歩行しやすいように工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はなみずき
 作成日 平成 30年 5月 28 日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者、家族からの意見や要望を意見シートに記入、解決していく一連の流れがスムーズに行えない事もあり、統一した対応が出来ていない。	その場で解決できそうな小さな意見や要望の際にも、「意見シート」へ記入していく事で、事業全体で要望について把握し、解決に向け取り組んでいく事が出来るようにしたい。	記録シートの様式を書きやすいものに変更し、小さな事でも記入する流れを作る。実施半年後、行ってみてどうだったかを評価し、記入方法の見直しを行う。その案件を運営推進会議で議題にあげ、事業全体で把握し地域や、地域包括支援センターの職員の意見も取り入れ、解決に向けて取り組んでいく。	1年
2	35	備蓄品が施設以外の所に準備しており、災害時などいざという時に、すぐに活用出来ない。	災害時など、いざという時に手の届く所に備蓄品があり少しでも不安なく、安全に過ごす事が出来る。	日頃からの、避難訓練の参加を引き続きお願いしていき、災害などいざという時に手の届く所に備蓄品があり、少しでも不安なく生活が送れると共に、この地域の避難場所としての役割を担う事が出来るよう、施設内での備蓄品の保管場所の確保を行っていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はなみずき